

5. イベントタイプ別の導入例・利点・留意点

▽大小様々なイベントで利用されるリユース食器

それではリユース食器は実際にどのような状況で使われているのでしょうか（使われる可能性があるものも含む）。ここではイベントのタイプを9つに分けて紹介します。紹介に際し、それぞれのイベントを次の視点から分析しています。いずれの視点も、リユース食器を利用したイベントの企画や運用に関わる項目です。併せて使い捨て容器やリユース食器を利用した場合のそれぞれのケースを比較します。

- ・ イベントの規模（大規模・中規模・小規模）
- ・ 会場への人の出入り（自由か制限ありか）
- ・ イベントの場所（屋内か屋外か）
- ・ 会場外からの飲食物の持ち込み（自由か制限ありか）
- ・ イベントの継続性（継続的か単発型か）
- ・ 試合・講演終了後の出入り口の一時的な混雑はあるか
- ・ 参加者が特定されているか
- ・ リユースカップの実施主体は誰か

①会議・懇親会・パーティー



懇親会やパーティーで用いられる紙やプラスチックのカップや食器をリユース食器に置き換えることが可能です。ガラスや陶器の食器を用いれば、洗うことによりリユースされます。ガラスや陶器の食器利用が難しい場合、リユース食器をレンタルする方法があります。ガラスや陶器などの利用が容易な懇親会などでは使い捨て食器の利用を極力避けましょう。

規模	出入制限	場所	持込み	継続性	混雑	参加者	実施主体
小～中規模	あり	屋内・屋外	なし	継続・単発	なし	特定多数	主催者
使い捨て食器の場合		リユース食器の場合					
使い捨て食器の購入費、かさばるごみ処理の手間と費用が必要		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自前の食器では新たな費用は発生しないが洗う手間が必要。 → レンタル料を準備できれば、洗わずそのまま返却が可能（P 31 参照） 					

②地域イベント



町内会や自治会で行われる小さなイベントから規模の大きな学園祭まで、リユース食器はさかんに導入されるようになってきました。京都では特に環境意識が高く、立命館大学などの学園祭でリユース食器が用いられるほか、市内のイベントでもリユース食器が当たり前という雰囲気が形成されつつあるとのこと。飲み物用のリユースカップだけではなく、豚汁やカレーなどの食器としても使われています。

規模	出入制限	場所	持込み	継続性	混雑	参加者	実施主体
小～大規模	なし	屋内・屋外	あり	継続・単発	なし	不特定多数	主催者
使い捨て食器の場合		リユース食器の場合					
使い捨て食器の購入費、かさばるごみの保管場所や処理の手間・費用が必要		<ul style="list-style-type: none"> ・自前で洗浄する場合、回収・洗浄・乾燥という新たな手間やコストが発生する。 →洗浄を外部に委託したり、洗浄不要の食器をレンタルして対応（P31）。 ・地域のおまつりではリユース食器のコストを負担することが困難なことがある。 →自治体所有の食器洗浄車（食器付）を実費負担のみで借用したり、地元企業等から協賛金を得たりするなど、資金面で工夫するとよい。 ・衛生面について保健所と協議が必要。 →衛生対応は本マニュアルのP45参照。 ・出入りが自由な会場の場合はリユース食器の回収率が下がる場合がある。 →デポジット制を導入したり回収所を目立たせ対応（P42参照）。 ・来場者に自分の食器は古布で汚れを落としてもらうといった参加できる仕組みを作り、より環境に対して気づきを与えることも可能。 					
（実施例）幼稚園、地域のおまつり、学園祭、文化祭、アートイベント、音楽祭、納涼会、バザー等							

③遊園地



遊園地や動物園、テーマパークなどでの飲料等提供時にリユース食器の利用が考えられます。

規模	出入制限	場所	持込み	継続性	混雑	参加者	実施主体
小～中規模	あり	屋内・屋外	施設による	継続的	なし	不特定多数	施設管理者等
使い捨て食器の場合		リユース食器の場合					
使い捨て食器の購入費、かさばるごみの保管場所や処理の手間・費用が必要		<ul style="list-style-type: none"> ・直営店以外の店舗との調整が必要になる。 →調整事項の具体的な項目についてはP53をご覧ください。 ・洗浄場所の確保が必要となる。 →洗浄施設が併設されていれば洗浄が可能。 →洗浄施設がない場合は使ったまま返却可能なレンタルシステムを利用する方法がある。 ・開放空間でのスムーズな回収に工夫が必要。 →デポジット制を導入したり、回収所を目立たせることで対応（P42参照）。 					
（実施例）鈴鹿サーキット（三重県）場内の屋外プールで実験的に導入された例がある。詳細については、（財）地球・人間環境フォーラム編「平成16年度デポジット制度導入実証事業に関する検討調査報告書（三重県受託事業）」 http://www.gef.or.jp/reuse/index9.htm#H15 参照。							

④映画館



映画館の売店では紙コップが多く使われますが、リユースカップへの転換が考えられます。また、パチンコ店やボーリング場への導入もごみの削減で有効です。

規模	出入制限	場所	持込み	継続性	混雑	参加者	実施主体
小～中規模	あり	屋内	なし	継続的	あり	特定多数	施設管理者等
使い捨て食器の場合		リユース食器の場合					
使い捨て食器の購入費、かさばるごみの保管場所や処理の手間、費用が必要		<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄や乾燥といった作業が発生する。 →使ったまま返却可能なレンタルシステムを利用することで効率のいい運営が図れる。 ・保管場所を確保する必要がある。 →保管時に場所をとらないリユースカップを選択したり、レンタルシステムを導入し対応。 					
(実施例) 山梨県甲府市内の映画館では、月に2回リユースカップが使われています。仙台市には、ベガルトランブラー（J2のサッカーチームのマイカップ）が使える映画館があります。							

⑤ビアガーデン



紙コップが多く使われるビアガーデンでも、リユースカップに転換することで大幅なごみ削減効果が得られるでしょう。

規模	出入制限	場所	持込み	継続性	混雑	参加者	実施主体
小～中規模	あり	屋内・屋外	なし	季節限定	なし	特定多数	経営者
使い捨て食器の場合		リユース食器の場合					
使い捨て食器の購入費、かさばるごみの保管場所や処理の手間、費用が必要		<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄や乾燥といった作業が発生する。 →使ったまま返却可能なレンタルシステムを利用することで効率のいい運営が図れる。 ・保管場所を確保する必要がある。 →保管時に場所をとらないリユースカップを選択したり、レンタルシステムを導入し対応。 ・開放空間でのスムーズな回収に工夫が必要。 →デポジット制を導入したり、回収所を目立たせることで対応(P42参照)。 ・シーズンオフの食器保管場所の確保が必要となる。 →必要量のカップをレンタルする方法を選択。 					

⑥自動販売機



紙コップ販売による自動販売機では、リユースカップやマイカップの利用が考えられます。オフィスや工事現場事務所等に設置される自動販売機（飲料サーバー）は限られた空間で限られた人々が利用するので、導入しやすいと言えるでしょう。

規模	出入制限	場所	持込み	継続性	混雑	参加者	実施主体
小～中規模	なし	屋内・屋外	—	継続的	なし	特定多数	飲料メーカー
使い捨て食器の場合		リユース食器の場合					
使い捨て食器の購入費、かさばるごみの保管場所や処理の手間、費用が必要		<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄や乾燥といった作業が発生する。 →使ったまま返却可能なレンタルシステムを利用することで効率のいい運営が図れる。 ・保管場所を確保する必要がある。 →保管時に場所をとらないリユースカップを選択したり、レンタルシステムを導入し対応。 ・開放空間でのスムーズな回収に工夫が必要。 →デポジット制を導入したり、回収所を目立たせることで対応（P 42 参照）。 ・シーズンオフの食器保管場所の確保が必要となる。 →必要量のカップをレンタルする方法を選択。 ・衛生面で保健所との調整が必要となる。 →マイカップの利用については、国から保健所設置の自治体に対して出された通知で既に認められている（通知本文 P 77）。 					

⑦ライブハウス・クラブ



屋内の小規模音楽施設は全国に 1,000 以上あると言われています。ライブハウス・クラブでのリユースカップ使用についてはリユース食器を実践している団体の A SEED JAPAN・ごみゼロナビゲーションが調整を行っています。ごみゼロナビゲーションが支援する事例だけでも全国 47 店舗のライブハウス・クラブで導入されています（平成 19 年 3 月現在）。

規模	出入制限	場所	持込み	継続性	混雑	参加者	実施主体
小規模	あり	屋内	場合毎	継続的	あり	特定多数	音楽施設経営者
使い捨て食器の場合		リユース食器の場合					
使い捨て食器の購入費、かさばるごみの保管場所や処理の手間、費用が必要		<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄に関しては常設されているシンクで手洗いをしているので問題ない。 ・くり返し使えるリユースカップを購入することで、その都度購入していた使い捨てカップ代が節約でき、経済的なメリットがある。 ・保管場所を確保する必要がある。 →1日で使用するカップを少なめに洗って回しているなど工夫している。 ・若い世代への啓発効果が得られる。 ・閉鎖空間のためデポジット制が不要であるケースもある。 					
（導入済みライブハウスの所在地）渋谷、下北沢、原宿、新宿、早稲田、代官山、代々木、高田馬場（以上東京都内）、宇都宮、埼玉、静岡、浜松、大阪、神戸、島根、熊本							

⑧大規模な音楽イベント



音楽イベントでの利用実績があり、音楽好きの若者の間ではリユースカップが浸透してきています。ap bank fes'06 では3日間75,000人動員し、過去最大級のリユースカップ全面導入を成功させた事例もあります。導入の形式として、1.全飲食店のドリンクが全てリユースカップを利用する全面導入と、2.リユースカップをレンタルしたい人がブースで借りて返す部分導入があります。リユースカップ導入をしたイベントは毎年継続的に利用されています。

規模	出入制限	場所	持込み	継続性	混雑	参加者	実施主体
数千～数万人	あり	屋内・屋外	場合毎	継続的	場合毎	不特定多数	主催者
使い捨て食器の場合		リユース食器の場合					
使い捨て食器の購入費、かさばるごみの保管場所や処理の手間、費用が必要		<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が多いため、ごみの削減効果が高い。 ・カップの使用数が多いので、広告効果や企業PR効果が高い。 ・若い世代への啓発効果が高い。 ・カップの用意・回収・洗浄・保管に工夫が必要。 →A SEED JAPANが運用のノウハウを蓄積している（連絡先P71）。 ・デポジット制度を導入した場合、デポジット金の管理や返金方法の仕組みが必要。 →屋外でもデポジットを導入する方法以外の方法がある（P44）。 ・開催場所によっては大量のカップ運搬の輸送コストが懸念として残る。 					
<p>（実施例）ap bank fes' 05・06（掛川市つま恋）※05は部分導入、06は全面導入。SUMMER SONIC TOKYO 04・05・06（千葉マリン・幕張メッセ）※04は全面導入、05・06は部分導入。SONICMANIA TOKYO 05は部分導入（幕張メッセ）</p>							

⑨スポーツ・スタジアム



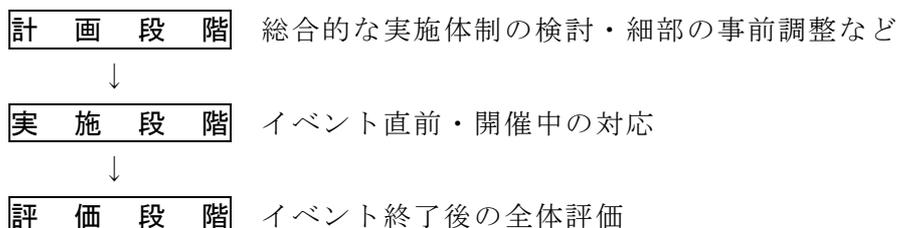
サッカー場を中心としてリユースカップやマイカップの利用が進んでいます。リユースカップの回収にはサッカーファン（サポーター）のボランティアが協力しているスタジアムがあります。また、新潟では販売店がデポジット金と交換して回収しています。平成19年2月現在、横浜・新潟・甲府のサッカースタジアムでリユースカップが導入されています。神戸や大阪でも導入が検討されています。

規模	出入制限	場所	持込み	継続性	混雑	参加者	実施主体
数万人以上	あり	スタジアム	びん・缶禁止	継続的	あり	特定多数	主催者・スタジアム管理者
使い捨て食器の場合		リユース食器の場合					
使い捨て食器の購入費、かさばるごみの保管場所や処理の手間、費用が必要		<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が多いため、ごみの削減効果が高い。 ・大量のカップが使用されるので、広告効果や企業PR効果が高い。 →初期投資を広告スポンサーから得ることができる。 ・参加者が多いため、カップの用意・回収・洗浄・保管に工夫が必要。 →カップの用意についてはP30、回収についてはP39、洗浄についてはP45、保管についてはP38参照。 ・試合終了後の回収で混乱が懸念される。 →動線を考えた回収所の設置（P39）で解決できる。また、利用者の慣れの問題もある。 ・デポジット制をとる場合、デポジット金の管理や返金方法の仕組みづくりや周知が必要になる（P42）。 					
<p>（実施例）横浜は回収ボックスを設置（デポジットなし）、新潟は売店がカップと引き替えに100円をキャッシュバック、甲府はボランティアがカップと引き替えに100円をキャッシュバック、鹿島は06年12月の最終戦にA SEED JAPANがコーディネート（デポジットなし）</p>							

6. リユース食器活用の手順・仕事の分類

▽まずは全体の流れをつかもう

イベントの大小にかかわらず、リユース食器を実際に利用する際には、綿密な計画や準備が必要となります。本マニュアルでは、一連の流れとして以下の3つの段階を想定しています。



▽具体的な調整課題の概要

それでは次に、各段階に応じてどの程度のことを調整しておく必要があるのか記載します。それぞれの内容については、第2部にて詳細に扱います。それぞれの項目の最後につけられた参照ページをご覧ください。

■計画段階：総合的な実施体制の検討・細部の事前調整

(全体に関すること)

- 関係者の意思統一 (P26)
- リユース食器実施の責任者は誰か (P27)
- スケジュールをどのように組むか (P28)
- どれくらいのコストがかかるのか (P28)

(食器に関すること)

- 食器はどのように入手するか (P30)
- 食器の大きさや素材はどのようなものが適しているか (P32)
- 食器を長持ちさせるにはどうしたらよいか (P35)
- リユース食器を何個程度準備したらいいか (P36)
- カップを開発する場合の工夫点はあるか (P38)
- リユース食器保管の際の留意事項はあるか (P38)

(回収方法に関すること)

- 回収場所はどうしたらよいか (P39)
- 回収率を上げるための効果的な宣伝方法はあるか (P40)
- 回収率を上げるためにデポジット金(預かり金)をかけるべきか (P42)
- デポジット金(預かり金)をかけた場合の金銭管理や調整事項は何か (P43)
- デポジット制度以外の回収率向上策はあるか (P44)

(洗浄・保管に関すること)

- 衛生管理に関して法律上の手続きはあるのか (P45)

- 洗浄場所をどこにするか (P47)
 - 現地で洗浄を考える場合に必要なものは何か (P49)
 - 食器洗浄車 (ゲシルモービル) というものがあるらしいが何か (P50)
- (その他調整事項)
- リユース食器の導入者と出店者・関係者とは何を調整したらよいか (P53)
 - リユース食器を用いて販売するものの中身をどうするか (P55)
 - 自治体との調整事項はあるか (P56)
 - 経費はどのように見積もるか。また、企業協賛は得られるか (P57)
 - リユース食器を会場で循環させるために必要な人数は何人か (P59)

■実施段階：イベント直前・開催中の対応

- 食器の回収所は周辺に比べて目立っているか (P60)
- 人員はどのように集めたらよいか (P61)
- 関係者に周知しておくべきことは何か (P61)
- 食器の数の管理に工夫は必要か (P61)
- 撤収スケジュールは組まれているか (P62)

■評価段階：イベント終了後の全体評価

- 次回実施のための改善案検討の仕方 (P63)
- ごみ削減量計算について (P64)
- 収支決算について (P65)

7. 第1部のまとめ

- ・ リサイクルよりもリユースが求められる
- ・ リユース食器の取り組みは全国に広がっている
- ・ 小規模から数万人規模のイベントで導入された実績がある
- ・ リユース食器は環境負荷を低減させる
- ・ 企業の社会的責任という面からもリユースは注目される
- ・ リユース食器導入には①計画段階②実施段階③評価段階と順を追って考えるとよい